

第1章

巻頭メッセージ



1. 巻頭メッセージ

2030年の実現を目指して国連が持続可能な開発目標(SDGs)を採択し、まもなく10年が経ちます。コロナ禍、各地の紛争、気候変動の深刻化といった複合的危機により、SDGsの達成はこれまでにない厳しい状況にあります。日本は、こうした現実から目をそらさず、未来への希望を胸に、ぶれることなくSDGs達成に向けた取組を進めます。

日本にも、少子高齢化、労働人口の大幅な減少という課題があります。これに正面から取り組み、持続可能な経済・社会、「楽しい日本」を目指すというのが私の信念です。全ての人が安心・安全を感じ、自分の夢に挑戦し、「今日より明日は良くなる」と実感できる、多様な価値観を持つ一人一人が互いに尊重し合い、自己実現を図っていく、そうした活力にあふれる経済・社会を実現します。多様な視点と能力が結集することで、より豊かな未来を築くことができると信じています。そのために、政府はもとより、市民社会、ビジネス、学識経験者、議会、こども・若者等、多様なステークホルダーと緊密に協力をしながら取組を進めております。また、世界有数の災害発生国として、災害対策の知恵や技術を海外に発信し、世界の防災に寄与したいと考えています。

現在開催中の大阪・関西万博では、SDGsやウェルビーイングが実現された世界を一足先に体験することにより、それを実現するため、一人一人に何ができるのかを考えるヒントを見つけることができます。世界中の人々が、「いのち」をテーマとする万博会場を訪れ、最先端の技術や多様な考え方、文化に触れることを願っています。国際社会が様々な分断や危機に直面している今だからこそ、未来への希望を共有し、SDGsに向けた連帯と協力を促さなければなりません。大阪・関西万博はその重要な触媒となります。是非御来場ください。

日本は、国連の場において、人間の安全保障と法の支配を推進する取組を進めてきました。現在の困難な環境の下、この二つの理念が一層重要になっていると確信します。国際社会が様々な課題への対処を迫られる中、人間の安全保障は、人間一人一人に焦点を当てる考え方です。SDGsの理念とも合致し、全ての人が安全・安心を感じ、お互いを尊重する社会を実現する上で基本ともなるものです。また、日本は、国際社会における法の支配の実現のため、国際司法裁判所(ICJ)や国際刑事裁判所(ICC)の役割の強化に取り組んできました。法の支配は、持続可能な未来を築くための礎となるものであり、日本のSDGs達成に向けた取組にも直結しています。

今回のVNR報告書は、課題先進国である日本が、少子高齢化、防災、地方創生等の取組にどのように取り組んできたかを紹介しています。我々の知見や経験を皆様と共有することで、SDGs推進の取組の一助となることを願っています。日本はこれからも、国連の一員として、皆様と共に持続可能な未来の実現に向けた取組を進めていく所存です。

日本国内閣総理大臣

SDGs推進本部長

石破茂